報道関係者各位
プレスリリース

2019 年 10 月 23 日
タオソフトウェア株式会社

RiskFinder 10 提供開始（Android OS10 対応版）
～ 10 月 23 日リリース ～

タオソフトウェア株式会社(東京都中央区、代表取締役：谷口 岳、以下 タオソフトウェア)は、2019 年 10 月 23 日、Android アプリの脆弱性診断ウェブサービス「RiskFinder（リスクファインダー）」の新版となる「RiskFinder 10（Android OS10 対応版）をリリースしました。
今回リリースした「RiskFinder 10 Android OS10 対応版」は、Android の最新 OS である、Android 10 に対応したものとなります。

【「RiskFinder」について】
「RiskFinder」は、Android アプリの脆弱性(セキュリティホール)を診断する Web サービスです。ブラウザを経由してアプリケーションファイル(.apk ファイル)を「RiskFinder」サーバへアップロードするだけで、すぐに診断結果を得ることができます。「RiskFinder」は 2013 年 4 月のサービス開始以来、キャリアやアプリ開発会社、アプリ検証サービス会社、金融会社など、多方面で利用されています。

【RiskFinder 10 Android OS10 版】

Android 10 のセキュリティ機能の大きな変更点は外部記憶装置関連です。外部記憶装置（SD カード他）へのアクセスは、WRITE_EXTERNAL_STORAGE パミッションを持つアプリであれば可能でした。多くのアプリケーションは、大きなファイルを扱うため、ファイルの共有のためにこのパミッションを使用しています。しかしながらこのパミッションを持つアプリは、他のアプリが作成した外部記憶装置上のファイルを読み書きできるためにセキュリティ上問題がある仕組みでした。
今回の仕様変更により、外部記憶装置に書き込んだファイルは、WRITE_EXTERNAL_STORAGE パミッションを持つ他のアプリから参照する事ができなくなりました。また写真、動画、音楽等の共有データは、Media サービスを経由してのみ利用可能になりました。この時に WRITE_EXTERNAL_STORAGE パミッションが必要になります。
外部記憶装置の仕様は、過去何回も変更され続けてきており仕様が定まらない時期もありましたが、今回の仕様変更でセキュリティ的に十分なレベルになったと言えます。

ユーザのプライバシー保護には、Android 8 から力を入れ変更が加えられてきていましたが、ユーザによる変更が困難な IMEI や DeviceId 等の情報が一般的なアプリから取得できなくなりました。
今回の変更で Android OS の持つプライバシーデータ関連の修正は終了したと言えます。

位置情報関係では、バックグラウンドで位置情報を常に監視し、ユーザのプライバシー情報である行動履歴を取得する危険がありました。ACCESS_BACKGROUND_LOCATION パミッションが追加され、位置情報のアクセスはユーザが「アプリの使用中のみ許可」、「常に許可」、「不許可」のいずれかを選択するようになり、不正なアプリが位置情報を取得することが困難になりました。

「RiskFinder 10」は、上記の変更や指針に関する事項をチェックし、問題個所を指摘し、改善案を提供致します。また 2019 年 9 月 1 日に、公開された JSSEC、「Android アプリセキュア設計・セキュアコーディングガイド【2019 年 9 月 1 日版】」にも対応しております。

【リスクファインダーについて】
社名　：タオソフトウェア株式会社
代表　：代表取締役　谷口 岳
所在地：東京都中央区新川 2-3-1 セントラルスクエア８F
URL　：http://www.taosoftware.co.jp/services/riskfinder